

大学教育プログラム

在宅医療・福祉コンソーシアム長崎 大学間単位互換科目の開発年次計画

科目名	コーディネート科目	学年	授業方法	区分	開講主担当	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
「在宅がん治療概論」	○	低学年	講義 (オムニバス)	合同授業 (基礎力)	長崎大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「在宅ケア概論」	○	低学年	講義 (オムニバス)	合同授業 (基礎力)	長崎大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「在宅緩和ケア概論」	○	低学年	講義 (オムニバス)	合同授業 (基礎力)	長崎県立大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「地域包括ケア概論」	○	低学年	講義 (オムニバス)	合同授業 (基礎力)	長崎国際大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「在宅医療概論」	○	低学年	講義 (オムニバス)	合同授業 (基礎力)	長崎国際大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「在宅チーム医療 早期体験学習」	○	低学年	実習	合同実習 (動機付け)	長崎大学 長崎県立大学 長崎国際大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「地域包括ケア 早期体験学習」	○	低学年	実習	合同実習 (動機付け)	長崎大学 長崎県立大学 長崎国際大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「在宅がん治療特論」	○	高学年	演習 (模擬カンファ)	合同授業 (応用力)	長崎大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「在宅緩和ケア特論」	○	高学年	演習 (模擬カンファ)	合同授業 (応用力)	長崎県立大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「地域包括ケア特論」	○	高学年	演習 (模擬カンファ)	合同授業 (応用力)	長崎国際大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「在宅がん医療・ 緩和ケア合同実習」	○	高学年	実習	合同実習 (実践力)	長崎大学 長崎県立大学 長崎国際大学	3月6～8日に 小規模トライアル 実施	2月～3月に 大規模トライアル 実施予定	[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、 充実化を図る。	
「在宅看護論」	—	低学年	講義 (オムニバス)	合同授業 (応用力)	長崎県立大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「薬物治療実践学」	—	高学年	講義 (オムニバス)	合同授業 (応用力)	長崎大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		

科目のモジュール化 → 大学間単位互換プログラムの体系化

講義 実習 演習

NICEキャンパス長崎について

「NICEキャンパス長崎」は、平成13年度からスタートした単位互換制度で、長崎県内全ての大学、短期大学及び高等専門学校が参加している。「NICE」の名称は、Nagasaki Intercollegiate(大学間)Credit(単位)Exchange(互換)の頭文字である。

単位互換制度は、各大学等が提供している授業科目(コーディネート科目、教養科目、専門科目)の中から、希望する科目を履修し、科目開設大学で単位を修得すれば所属大学の単位として認定される制度である。

※コーディネート科目

単位互換用に新たに開設する科目で、開講大学が設定した長崎らしいものや時事的なものをテーマに、他の大学の教員や、実業界で活躍されている方の協力を得て、オムニバス形式で講義を行う。



「NICEキャンパス長崎」
2014年度学生募集ガイド

コーディネート科目

合同授業（基礎力）

「在宅がん治療概論」

概 要

在宅がん治療の基礎知識、在宅がん治療に携わるそれぞれの職種の職能、各職能がどのように連携して在宅がん治療に取り組んでいるかについて学習する。講義はオムニバス形式で行う。

科 目

開講期間：平成26年5月22日（木）～平成26年7月10日（木）

開講時間：18:30～20:00（90分）

開講場所：長崎大学薬学部第2講義室

単 位：1単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生、一般社会人

カリキュラム・講師

回	月 日	内 容	講 師
1	5月22日	オリエンテーション・がん患者の在宅療養支援	中嶋 幹郎（長崎大学薬学部）
2	5月29日	がん看護における看護師の役割	中嶋 由紀子（長崎大学病院がん診療センター）
3	6月5日	がん診療における医師の役割	芦澤 和人（長崎大学病院がん診療センター）
4	6月12日	がん治療における多職種協働	手嶋 無限（開生薬局）
5	6月19日	在宅がん治療における医師・歯科医師の役割	山之内 孝彰（長崎大学医学部医学科） 介田 圭（長崎大学歯学部）
6	6月26日	在宅がん治療における看護師・薬剤師の役割	江口 真美（長崎大学医学部保健学科） 江頭 かの子（長崎大学薬学部）
7	7月3日	在宅がん治療における栄養管理	駿河 和仁（長崎県立大学看護栄養学部栄養健康学科）
8	7月10日※	在宅がん治療における地域リハビリテーション	松坂 誠應（長崎大学医学部保健学科）

※7月10日は台風のため中止

履修生内訳

所 属		人 数
長崎大学	医学部（保健学科）	1名
	歯学部（歯学科）	16名
長崎女子短期大学	生活創造学科ビジネス・医療秘書コース	3名
合計		20名

聴講生内訳

所 属		人 数
長崎大学	医学部（医学科）	7名
	薬学部（薬学科）	2名
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科		5名
合計		14名



受講生の感想（一部抜粋・編集）

- 末期がん患者に共通してみられる思いとして、「家にいるのが一番」、「悔いを残したくない」などというものがあつた。医師は、患者が最期に何をしたいのか、どのように過ごしたいのかという患者の意志を受け入れなければならない。患者が自宅療養を希望した場合、それをサポートできるよう尽力することが大事だと思った。（医学生）
- 今回の講義で様々な専門職が患者の支えとなれることを知り、今後は多職種と連携感を持って医療を行っていくことが重要だと思った。（看護学生）
- 歯科医師視点での講義は新鮮でとても興味深く、口腔ケアのあり方というものが自分自身の中で大きく変わった。歯科医師がどのような形で在宅医療に携わっているのか理解することができた。（薬学生）
- これまで多職種協働とは、様々な職種が其々の知識を出し合うことだと思っていたが、講義を通して自己および他の職種に対する理解、特に限界を知ることが大事であると学んだ。他職種を知り、自身のできることを認識して協力していきたいと思った。（薬学生）

「在宅ケア概論」

概 要

在宅療養支援に携わるそれぞれの職種の職能について、また各職能がどのように連携して在宅チーム医療を行っているかについて学習する。講義はオムニバス形式で行う。

科 目

開講期間：平成26年10月2日（木）～平成27年1月22日（木）

開講時間：18：30～20：00（90分）

開講場所：長崎大学薬学部第2講義室、5階研修室、第1講義室

単 位：2単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生、一般社会人

カリキュラム・講師

回	月 日	内 容	講 師
1	10月2日	オリエンテーション・在宅療養支援概論	中嶋 幹郎（長崎大学薬学部）
2	10月9日	在宅療養支援における介護支援専門員の役割	大町 いづみ（長崎大学医学部保健学科）
3	10月16日	在宅療養支援における緩和ケア	北條 美能留（長崎大学病院緩和ケアチーム）
4	10月23日	在宅療養支援における地域医療連携（概論）	川崎 浩二（長崎大学病院地域医療連携センター）
5	10月30日	在宅療養支援における地域医療連携の実際 （看護師ならびに医療ソーシャルワーカーの立場から）	田平 直美（長崎大学病院地域医療連携センター） 向田 圭介（長崎大学病院地域医療連携センター）
6	11月6日	在宅療養支援における長崎在宅Dr.ネットの役割	藤井 卓（認定NPO法人長崎在宅Dr.ネット） （藤井外科医院）
7	11月13日	在宅療養支援における看護職の役割	中尾 八重子（長崎県立大学看護栄養学部看護学科）
8	11月20日	在宅療養支援における訪問リハビリの役割	本田 憲一（長崎リハビリテーション病院）
9	11月27日	在宅療養支援における薬剤師の役割	手嶋 無限（開生薬局）
10	12月4日	在宅療養支援における管理栄養士の役割	武藤 慶子（長崎県立大学看護栄養学部栄養健康学科）
11	12月11日	在宅療養支援における歯科医師の役割	角町 正勝（角町歯科医院）
12	12月18日	在宅療養支援における歯科衛生士の役割	猪野 恵美（長崎県歯科衛生士会）
13	1月8日	在宅療養支援における認知症	河口 朝子（長崎県立大学看護栄養学部看護学科）
14	1月15日	在宅療養支援における介護専門職の役割	堀部 和貴（長崎県介護福祉士会）
15	1月22日	在宅療養支援における地域包括支援センターの役割	神村 紀行（長崎市滑石・横尾地域包括支援センター）

履修生内訳

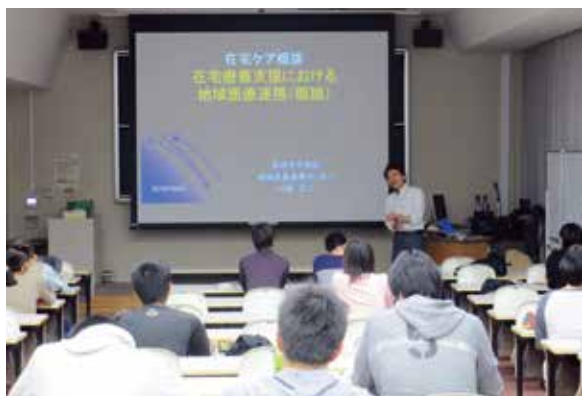
所 属		人 数
長崎大学	薬学部（薬学科・薬科学科）	5名
	医学部（医学科・保健学科）	2名
長崎国際大学	人間社会学部	1名
活水女子大学	健康生活学部	1名
合計		9名

聴講生内訳

所 属		人 数
長崎大学	医学部・薬学部	7名
合計		7名

一般社会人内訳

所 属	人 数
看護師・臨床検査技師・一般	4名
合計	4名



受講生の感想（一部抜粋・編集）

- 毎回違う先生のお話が聞けてとても良かったです。そして、他の大学の方たちとも知り合うことができ、とても有意義であった。（医学生）
- 現場での実習をまだしていないため、とても現場の写真等、印象的な講義だった。医療における自分の職業の役割については何となくわかっていたつもりでしたが、今回の講義で理解が深まりました。（薬学生）
- さまざまな医療者の方々の現場のお話を伺えて、本当に勉強になった。すばらしい講義に、毎回感動がありました。長崎での医療の概略がわかり、とても良かったです（一般社会人）

「在宅緩和ケア概論」

概 要

在宅緩和ケアの基礎知識、在宅緩和ケアに携わるそれぞれの職能、また各職種がどのようにして連携し在宅緩和ケアに取り組んでいるかについて学習する。講義はオムニバス形式で行う。

科 目

開講期間：平成26年10月8日（水）～平成27年1月28日（水）

開講時間：18：00～19：30（90分）

開講場所：長崎県立大学シーボルト校東棟E110・中央棟M104教室

単 位：2単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生、一般社会人

カリキュラム・講師

回	月 日	内 容	講 師
1	10月8日	オリエンテーション・在宅緩和ケアの現状と課題	吉原 律子（長崎県立大学看護栄養学部看護学科）
2	10月15日	在宅緩和ケアの基礎知識	内田 新（長崎みなとメディカルセンター市民病院）
3	10月22日	ホスピス・緩和ケア	益富 美津代（聖フランシスコ病院ホスピス病棟）
4	10月29日	在宅緩和ケアとがん診療	山之内 孝彰（長崎大学医学部医学科）
5	11月5日	在宅緩和ケアにおける医師の役割	中尾 勘一郎（認定NPO法人長崎在宅Dr.ネット） （ホーム・ホスピス中尾クリニック）
6	11月12日	在宅緩和ケアにおける看護師の役割	吉原 律子（長崎県立大学看護栄養学部看護学科）
7	11月21日※	在宅緩和ケアにおける行政の役割	向原 茂明（杵岐市立杵岐市民病院）
8	11月26日	在宅緩和ケアにおける薬剤師の役割	手嶋 無限（開生薬局）
9	12月3日	在宅緩和ケアにおける歯科医師の役割	介田 圭（長崎大学歯学部）
10	12月10日	在宅緩和ケアにおける管理栄養士の役割	古川 美和（長崎市医師会医療センター診療所）
11	12月17日	在宅緩和ケアとリハビリテーション	松坂 誠應（長崎大学医学部保健学科）
12	1月7日	在宅緩和ケアにおける地域医療連携	川崎 浩二（長崎大学病院地域医療連携センター）
13	1月14日	在宅医療における情報通信技術の活用	前村 葉子（長崎県立大学国際情報学部）
14	1月21日	在宅緩和ケアで用いられる薬剤	手嶋 無限（開生薬局）
15	1月28日	在宅緩和ケアにおける死生観	内村 公義 （NPO法人ウエスレヤン・コミュニティカレッジ）

※11月21日は金曜日開講

履修生内訳

所 属		人 数
長崎県立大学	看護栄養学部（看護学科・栄養健康学科）	13名
長崎外国語大学	外国語学部（国際コミュニケーション学科）	1名
合計		14名

聴講生内訳

所 属		人 数
長崎県立大学	看護栄養学部（看護学科・栄養健康学科）	5名
合計		5名

一般社会人内訳

所 属	人 数	所 属	人 数
医師	1名	検査技師	1名
看護師	3名	一般	2名
合計			7名



受講生の感想（一部抜粋）

- これからは在宅医療が大切になっていくので、病院でのケアだけでなく様々な角度から治療の仕方を考えなければならなかった。今までは在宅緩和ケアのイメージがぼんやりとしかなかったが、しっかりと学んで取り組まなければならない部門だと思った。（栄養学生）
- 食事は生きる上で重要になることがよくわかった。インスリン注射を打たなくていい状態にまで回復していておどろき、管理栄養士の役割がいかに重要であるか知ることができた。“食べる意欲が生きる意欲につながる”という言葉がとても印象に残った。生きるということは互いに誰かと協力しなければいけないものではない。協力の大切さを毎回の授業の中で学んでいる気がする。（看護学生）
- 認知症の方の対処は難しいことを改めて知った。薬は、塗れない、開けられない、適切に飲めない大変さを知った。（一般社会人）

「地域包括ケア概論」

概 要

地域包括ケアの基礎知識、地域包括ケアに携わるそれぞれの職能、また各職種がどのように連携して地域包括ケアに取り組んでいるかについて学習する。講義はオムニバス形式で行う。

科 目

開講期間：平成26年5月10日（土）～平成26年6月28日（土）

開講時間：9：00～10：30、10：40～12：10（各90分）

開講場所：長崎国際大学6104教室

単 位：2単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生、一般社会人

カリキュラム・講師

回	月 日	内 容	講 師
1	5月10日	地域包括ケアにかかわる専門職と専門職連携の重要性	岩下 淳二（長崎国際大学薬学部）
2	5月10日	入院患者の退院支援・退院調整	永田 敬博（佐世保共済病院医療連携室）
3	5月10日※	在宅ケアマナジメント	堀田 智津子（あかがき内科循環器科）
4	5月17日	在宅訪問看護	越智 幸代（佐世保市医師会訪問看護ステーション）
5	5月17日	在宅訪問介護	秋月 眞理子（ハートフルケアたまがわ）
6	5月24日	在宅医療における栄養（1）	林 俊介（長崎国際大学健康管理学部）
7	5月24日	在宅医療における栄養（2）	林 俊介（長崎国際大学健康管理学部）
8	5月31日	患者・家族が望むこと	松尾 文子（認知症のひとと家族の会） 大野 健治（認知症のひとと家族の会）
9	6月14日	地域包括支援センターの機能と役割（1）	下平 和子（佐世保市長寿社会課）
10	6月14日	地域包括支援センターの機能と役割（2）	長塚 弘章（佐世保市相浦地域包括支援センター）
11	6月21日	地域密着型サービスについて	山辺 誠司（小規模多機能ホーム あかりの里）
12	6月21日	地域包括ケアにおける医師の役割	山之内 孝彰（長崎大学医学部医学科）
13	6月21日※	バリアフリーについて	原 哲弘（長崎国際大学人間社会学部）
14	6月28日	地域包括ケアにおける歯科医師の役割	介田 圭（長崎大学歯学部）
15	6月28日	地域包括ケアにおける薬剤師の役割	徳永 修（あんず薬局）

※第3回（5月10日）、第13回（6月21日）は13：00～14：30開講

履修生内訳

所 属		人 数
長崎国際大学	薬学部（薬学科）	1名
	人間社会学部（社会福祉学科）	11名
合計		12名

聴講生内訳

所 属		人 数
長崎県立大学	看護栄養学部（看護学科）	1名
合計		1名

一般社会人内訳

所 属	人 数	所 属	人 数
看護師	1名	ケアマネジャー	2名
保健師	2名	一般	6名
合計			11名



受講生の感想（一部抜粋・編集）

- チーム医療を担う専門職の専門性をより十分に活かし、患者さんやその家族の希望に合わせた支援を行っていくことが大切だと感じた。（薬学生）
- 今回の講義を受けて、地域包括ケアにかかわる専門職と専門職連携の重要性について、より関心を高めることができた。地域包括ケアシステムを実現させるために、福祉専門職は何をしたらいいか今後考えていきたい。（社会福祉学生）
- 講義を受けて、初めて知ることも多く、とても勉強になった。他の専門職ばかりに頼らず、他職種から頼られるような社会福祉士・介護福祉士になりたいと思う。（社会福祉学生）

「在宅医療概論」

概 要

在宅医療に携わる各職種また各職能が連携し、患者に対してどのようなアプローチを行うかについて学習する。講義はオムニバス形式で行う。

科 目

開講期間：平成26年9月27日（土）～平成26年11月15日（土）

開講時間：9：00～10：30、10：40～12：10（各90分）

開講場所：長崎国際大学6104教室

単 位：2単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生、一般社会人

カリキュラム・講師

回	月 日	内 容	講 師
1	9月27日	在宅医療にかかわる多くの専門職と専門職連携の重要性	岩下 淳二（長崎国際大学薬学部）
2	9月27日	在宅医療における行政のサポート	大塚 俊弘（長崎県県央保健所）
3	9月27日※1	在宅医療におけるヘルスカウンセリング	古賀 義（長崎国際大学人間社会学部）
4	10月4日※2	第2回長崎県民フォーラム	長塚 弘章（佐世保市相浦地域包括支援センター）
5			松坂 誠應（長崎大学理事 副学長）
6	10月11日	在宅医療における薬局薬剤師の役割	徳永 修（あんず薬局）
7	10月11日	在宅医療における歯科医師の役割	疊屋 文人（佐世保市歯科医師会）
8	10月18日	在宅医療における医師の役割	矢野 捷介（長崎国際大学健康管理学部）
9	10月18日	在宅医療における薬剤師の役割	七嶋 和孝（ななしま薬局）
10	10月25日	在宅医療における調剤と薬の知識	仮屋蘭 博子（長崎国際大学薬学部）
11	10月25日	在宅医療における管理栄養士の役割	林 俊介（長崎国際大学健康管理学部）
12	11月8日	在宅医療における病院薬剤師の役割	川崎 浩一（佐世保市病院薬剤師会）
13	11月15日	在宅医療における健康サポート	熊谷 賢哉（長崎国際大学人間社会学部）
14	11月15日	在宅医療における緩和ケアの知識	山田 勝士（長崎国際大学薬学部）
15	12月13日	在宅医療における看護師の役割	吉原 律子（長崎県立大学看護栄養学部看護学科）

※1：第3回（9月27日）は13：00～14：30開講

※2：第4回、5回（10月4日）は13：30～15：30にアルカスSASEBO（佐世保市）で開催の「平成26年度第2回長崎県民フォーラム」

履修生内訳

所 属		人 数
長崎国際大学	薬学部（薬学科）	70名
	健康管理学部（健康栄養学科）	1名
	人間社会学部（社会福祉学科）	4名
合計		75名

一般社会人内訳

所 属	人 数
一般	2名
合計	2名



受講生の感想（一部抜粋・編集）

- これからさらに高齢化が進んでいくにあたって、在宅医療における地域の連携が非常に重要になってくると感じた。（薬学生）
- 自分の専門職をより理解し、他の分野との関わり合いをさらに深めていきたいと思った。（薬学生）
- これから自分たちの年代が高齢者を支えるために、医療に関わる人と連携をとることがとても大切であることが分かった。（栄養学生）

合同実習（動機付け）

「在宅チーム医療早期体験学習」

目 的

大学・学部間の垣根を越えて、地域の訪問看護ステーション、薬局等の施設担当者とともに在宅療養者宅への同行を通し、在宅療養支援の実際を知ること、多職種協働によるチームアプローチの重要性を考える。

一般目標

在宅療養者が必要とするケアに対して、地域の保健・医療・福祉チームがどのように連携し療養支援を行っているかを理解する。

行動目標

- ①在宅療養者およびその家族が必要としている様々なケアの内容について述べる（知識）
- ②在宅療養者を中心にしてどのような職種が関わっているかについて述べる（知識）
- ③地域における薬局・訪問看護ステーションの目的やチーム医療における役割について述べる（知識）
- ④学外で学ぶ上で、学生としての適切な態度・マナーに配慮する（態度）
- ⑤グループで学習成果をまとめ、学習プロセスを共有し討議する（態度）

科 目

開講期間：平成26年8月21日（木）～8月22日（金）

1泊2日の宿泊型

開講場所：長崎大学薬学部、訪問看護ステーション、薬局

単 位：1単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生で、医療・保健・福祉・介護等の学科を専攻している1年次以上の学生



平成26年度 NICEキャンパス長崎
大学間連携実習報告書

日 程

8月21日（木）	8月22日（金）
8:30～ 合同オリエンテーション	6:30～ 起床
10:00～ 施設での体験学習 （訪問看護ステーション、薬局）	7:00～ 朝食、整理整頓など
17:00～ 宿泊施設へ移動 （宿泊先：長崎市日吉青年の家）	8:20～ 長崎大学薬学部へ移動
18:00～ 夕食	9:00～ グループワーク、ポスター作成
19:00～ セミナー	12:00～ 昼食
21:00～ グループワーク	13:00～ 学習報告会発表準備
22:30 就寝	13:30～ 学習報告会
	16:15～ 写真撮影
	16:30 解散

参加学生内訳

所 属		人 数
長崎大学	医学部（保健学科）	9名
	歯学部（歯学科）	1名
	薬学部（薬学科）	2名
長崎県立大学	看護栄養学部（看護学科、栄養健康学科）	15名
長崎国際大学	薬学部（薬学科）	7名
	健康管理学部（健康栄養学科）	5名
活水女子大学	看護学部（看護学科）	1名
合計		40名



受講生の感想（一部抜粋・編集）

- 歯科医師として、これからチーム医療が必要になってくることを訴え、歯科医師としてできることを考えていきたい。嚥下補助、口腔ケア、食事指導など重要なことはもちろん、様々なことで在宅ケアに関わっていきたい。（歯学生）
- 見学するまでは、訪問する看護師、主治医、薬剤師が連携してケアを行うものだと思っていた。しかし、それだけではなく、その他にもケアマネジャー、OT、PTなどの専門職も重要な役割を持っていて、さらに一緒に暮らしている家族はもちろん、一人暮らしの患者さんでも、離れて暮らす家族との連携が大切であると感じた。また、在宅での現状を見て、訪問薬剤師の必要性、訪問薬剤師の数の少なさを実感した。実際私も、大学で講義を受けるまで訪問薬剤師の存在さえ知らなかった。そのため、1年生の今の時期に知ることができ、考える機会があって本当によかったと思った。（薬学生）
- 今回の早期体験学習では、在宅を継続できることが目標であることや、1人に対しチームでサポートすることの重要性を学ぶことができた。しかし、まだ看護師における技術・知識の面で不十分であるため今後の学習において学生の間にできる学習や臨床に出てから学習できるものなど、これからもたくさんすることに興味を持ち勉学に励みたいと思う。（看護学生）
- 在宅医療という、私たちが大学で主に学ぶ病院での医療とは異なる現場を直に知り、新たな視点ができた。そこでのチーム医療や各専門職の仕事を見て驚き、感嘆した。想像以上に患者中心で回っているチーム医療はこれからの大学生活における大きな目標となり、見本となった。患者さんが住み慣れた家で過ごしたいという願いに親身に応えようと寄り添う姿勢も大いに学ぶことができた。自分の職種である作業療法士の役割であるリハビリを在宅医療に浸透させる方法を考えていきたい。（作業療法学生）
- 他学部生と交流することで今までとは違った視点で考えることができた。栄養の面から、看護の面から、歯学の面から、薬学の面からなど多面的に在宅医療を考えることで、つながっている部分、違う部分と見え方が違い、面白さを覚えた。グループワークでの交流が刺激になり、今まで以上に栄養について学ぶ必要があると考えた。発表の質疑応答で在宅医療の中心は誰かという質問を受けたが、主体は患者とその家族にあると思う。なぜなら、患者とその家族の治そうという意志、治したいという意志があってこそチーム医療ができ、その力が発揮されると思ったからである。医療従事者が主体となるのではなく、患者本人が主体となり、病気に立ち向かっていくことが必要だと思われる。その中で、私たち医療従事者、保健機関がサポートし、治療をすることが必要だと感じた。（栄養学生）

「地域包括ケア早期体験学習」

目 的

地域の在宅医療支援施設の担当者とともに在宅療養者宅への同行や地域包括支援センターの実務を学ぶことを通し、在宅療養支援の実際を知ること、多職種協働によるチームアプローチの重要性を考える。

一 般 目 標

高齢者をはじめとする地域住民の保健・医療・福祉・介護ニーズに対して、地域包括支援センターが果たしている役割や、地域の関係機関と専門職がどのように連携し支援を行っているのかを理解する。

行 動 目 標

- ①地域包括支援センターの4つの機能（総合相談、権利擁護、介護予防マネジメント、包括的・継続的ケアマネジメント）とその地域の特性について理解する。（知識）
- ②地域の高齢者を中心に、どのような機関や専門職、非専門職が関わっているかについて述べる（知識）
- ③学外で学ぶ上で、学生としての適切な態度・マナーに配慮する（態度）
- ④グループで学習成果をまとめ、学習プロセスを共有し討議する（態度）

科 目

開講期間：平成26年8月28日（木）～平成26年8月29日（金）

開講場所：長崎大学薬学部、長崎市内の地域包括支援センター

単 位：1単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生で、医療・保健・福祉・介護等の学科を専攻している1年次以上の学生



平成26年度 NICEキャンパス長崎
大学間連携実習報告書

日 程

8月28日（木）	8月29日（金）
9：30～ 合同オリエンテーション	8：30～ 学生受付
10：30～ 昼食（移動時間含む）	9：00～ グループワーク、ポスター作成
13：00～ 施設での体験学習 （地域包括支援センター）	12：00～ 長崎大学薬学部へ移動
17：00～ 長崎大学薬学部で点呼、解散	13：00～ 学習報告会発表準備
	14：00～ 学習報告会
	15：30～ 写真撮影
	16：30 解散

参加学生内訳

所 属		人 数
長崎大学	医学部（保健学科）	4名
	薬学部（薬学科）	3名
長崎県立大学	看護栄養学部（看護学科）	15名
長崎国際大学	薬学部（薬学科）	3名
	健康管理学部（健康栄養学科）	2名
活水女子大学	看護学部（看護学科）	3名
合計		30名



受講生の感想（一部抜粋・編集）

- 全く知識のない状態からの学習だったが、今回この体験学習に参加して非常によかったと思う。地域包括支援センターについて最初に持っていたイメージは、高齢者や自宅療養者を集めて健康体操などを行う機関だと思っていた。実際には、高齢者が生活面で困っていることに対し支援を行う相談窓口であることが分かった。話を伺うにつれ、他人事ではなく自分の両親などもかわる可能性のある機関なのだということも分かった。（薬学生）
- 私はこれまで、地域包括支援センターは介護が必要な方の手助けをするのかと思っていたので、健康なうちから介護の予防をすることや、介護者側の支援もすることで高齢者を支えているのだと分かった。地域包括支援センターは自分が考えていたものと違って地域との関わりがとても強く、さらに少人数だが幅広い活動をして地域に欠かせない施設だということが分かった。（看護学生）
- 参加した会議では、認知症患者の徘徊対策について話し合われていた。認知症の方の徘徊に気付かず、山奥で亡くなっているケースなども多く、それらを解決するためにも、地域のつながりが大切になってくる。また、退院しても施設等の行き先が見つからない患者もいるということを病院の実態として語られていた。高齢者がますます増えていくなか、病院の飽和状態はさらに悪化するだろう。そのため、高齢者サロン等での介護予防の実践や、地域で協力していく姿勢が求められてくると学んだ。今回の実習で、地域包括支援センターの職務内容や、そこで働く職員のことについてしっかり学ぶことができた。そして現在の課題として上に述べたことや、知名度の低さがあり、介護サロンの積極的な開設や地域とのつながりを深めることの大切さを理解することができた。（作業療法学生）
- 今後、身の回りから様々な情報を集めて広めていくことが必要だと考えた。これは、学生のうちからできるもっとも簡単な方法だと思う。これからもっと専門的な学業をするうえで、地域包括支援センターや在宅医療はもちろん、様々な制度を意識し、勉学に励む必要があると感じた。管理栄養士という立場になるため、指導だけではなく支援ということにもっと力を入れるべきだと感じた。さらには、栄養という一つの事柄だけにとらわれるのではなく、多方面から物事を考えられるようにする必要があると感じた。（栄養学生）

合同授業（応用力）

「在宅がん治療特論」

概 要

在宅移行予定のがん患者に対するケアの方針を、多職種からなるチームで構築する。最終発表は模擬カンファレンスの形式で行う。

一 般 目 標

将来のチーム医療実践に向けて、患者および家族の情報を共有し、ケアの方針をたてる過程および模擬カンファレンスを経験することにより、各自の専門性を発揮しつつ、医療チームとして質の高い医療を提示する能力を習得する。

行 動 目 標

- ①在宅療養において患者や家族が有する問題をチーム内で共有する。
- ②在宅療養を支援する職種の視点と業務内容を理解する。
- ③問題解決のため、エビデンスの高い情報を活用する。
- ④問題解決のための患者・家族へのケアは、医学的問題のみでなく、全人的な対応が求められることを理解する。
- ⑤他職種と連携してチーム医療（在宅療養支援）を行うことの重要性を理解する。
- ⑥患者・家族への理解、問題やケアの方針、各役割について、討議のプロセスも含めわかりやすく発表する。

科 目

開講期間：平成26年11月15日（土）～平成26年11月29日（土）

開講場所：長崎大学薬学部研修室

単 位：1単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生で、医療・保健・福祉・介護等の学科を専攻している
3年次以上の学生

日 程

開講日・開講場所	内 容
1日目(11月15日)	・オリエンテーション、自己紹介 ・レクチャー ①在宅がん治療 ②介護保険制度 ③退院支援と退院調整 ・事例1の提示(教員による模擬カンファレンス) ・事例2の提示 ・患者全体像の把握、学習項目の抽出
2日目(11月29日)	・グループ内で自己学習の成果報告 ・発表準備 ・模擬カンファレンスによる発表 ・パワーポイントによる発表 ・発表に対する質問、まとめ

履修生内訳

所 属		人 数
長崎大学	医学部（保健学科）	1名
	薬学部（薬学科）	5名
合計		6名

聴講生内訳

所 属		人 数
長崎大学	医学部（保健学科）	3名
	歯学部	1名
合計		4名



受講生の感想（一部抜粋・編集）

- 多学部で学習する機会はほとんどないため、今回の在宅がん治療特論はとても良い機会になった。今後も積極的に多職種の人とかかわり、自分にはない視点から患者を看るということを忘れずに専門性を高めていきたい。看護師は患者・家族と共に過ごし関わる機会が多いため、患者・家族のディマンズを汲み取りながら、本当に必要なニーズを考えていけると思う。そのニーズを多職種で共有し、考えを練ることで患者・家族にとって最善の方法で在宅療養、退院調整へと持っていけるのだと学んだ。患者や家族の言葉に耳を傾け、寄り添うことのできる看護を提供していきたいと思った。（看護学生）
- 今回は他学部学生との合同演習であり、自分の専門とは異なった視点からの患者のケアは気付かないようなことが多く、非常に勉強になった。しかし、実際の医療現場では気づかなければならない、気づいて当然だと思うのでこのような違った視点からもみることができるようになりたい。また、薬剤師は薬の専門家であるという責任を持って薬剤師としての役割を全うできるように、大学の残り2年と少しを過ごしていきたい（薬学生）
- 将来在宅がん治療に関わることがあれば、今回のこの在宅がん治療特論で学んだ知識を活かされればと思う。チーム医療に参加した時に高い専門性をもっていられるように、もっと勉強して知識を身につけて行かないといけないと思った（薬学生）

「在宅緩和ケア特論」

概 要

- ・在宅緩和ケアを必要とするがん患者および家族の、ケアの目標を多職種からなるチームで構築する。
- ・模擬事例を用いた在宅療養の実際から、患者、家族の目標、達成に向けた課題と支援内容（各専門職の役割）を具体的に検討し、「担当者による模擬カンファレンス」として発表する。

一 般 目 標

将来のチーム医療・チームケアの実践に向けて、患者および家族の情報を共有し、在宅療養のケア方針を立てる過程および模擬カンファレンスを経験することにより、各自の専門性を発揮しつつ、チームとしての質の高い医療・ケアを提示する能力を習得する。

行 動 目 標

- ①（在宅）緩和ケアについて理解する。
- ②在宅療養支援（チーム医療）における各専門職の視点とケア内容をチームとして理解する。
- ③在宅療養において患者や家族が有する課題（要望・ニーズ）をチーム内で共有する。
- ④課題解決に向け、エビデンスの高い情報を各専門性およびチームとして活用する。
- ⑤課題解決のケアは、患者・家族の医学的問題のみでなく、全人的な対応が求められることを理解する。
- ⑥課題解決の方法およびケアを討議することで、多職種連携の重要性を理解する。
- ⑦患者・家族の理解、課題と解決策の根拠と各役割を、討議のプロセスも含めわかりやすく発表する。

科 目

開講期間：平成26年5月24日（土）～平成26年6月7日（土）

開講場所：長崎県立大学シーボルト校地域・老年看護実習室

単 位：1単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生で、医療・保健・福祉・介護等の学科を専攻している3年次以上の学生

日 程

開講日・開講場所	内 容
1 日目（5 月24日）	・オリエンテーション、自己紹介 ・緩和ケアに関するレクチャー ①在宅緩和ケアと症状コントロール ②在宅緩和ケアを必要とする患者・家族の療養支援と多職種の役割 ・事例1の提示（教員による模擬カンファレンス） ・事例2の提示、グループワーク （患者全体像の把握、今後の在宅療養の継続に向けた課題をグループで共有）
2 日目（6 月 7 日）	・オリエンテーション ・グループワーク （在宅療養の継続に向けた課題、必要な支援の整理） ・発表準備 ・模擬カンファレンスによる発表 ・全体討論、まとめ

履修生内訳

所 属		人 数
長崎大学	医学部（保健学科）	4名
	薬学部（薬学科）	1名
長崎県立大学	看護栄養学部（看護学科、栄養健康学科）	6名
合計		11名

聴講生内訳

所 属		人 数
長崎大学薬学部（薬学科）		1名
合計		1名

一般社会人内訳

所 属		人 数
長崎県立大学看護栄養学部看護学科教員		1名
一般		1名
合計		2名



受講生の感想（一部抜粋・編集）

- 今後にむけた自己課題として、他の職種の方は薬に関してわからないことが多く、専門用語も理解してもらえない場合が多かったため、他の職種の方にもわかりやすいように薬、病態の説明を心掛ける必要がある。薬剤師の役割に関して未だ認知してもらえてない状態のため、自分の専門性が発揮できるところを考え、積極的にケアに参加していく姿勢が必要であり、他職種から薬に関して信頼される存在になるべきであると感じた。まずは、医療用麻薬や抗がん剤、栄養剤などの知識をしっかりと身に付け、目の前の患者さんに考えられる問題点を多く素早く抽出できるように推論する能力が必要だと感じた。そして他の職種とうまく情報の共有、交換ができるコミュニケーション能力を身につけようと思う（薬学生）
- 模擬カンファレンスを実際にやってみて、患者さんが周りにサポートが常にあることを認識でき、安心してもらえるようなコミュニケーションをとれるようになりたい。また、安心感を与えられるような雰囲気作りも大切だと感じた。今後実習などで患者さんに関わる機会がたくさんあるので、患者さんとのコミュニケーションでは、難しい専門用語は使わず、わかりやすい言葉で伝えること、理解してもらえたか確認することを今後の課題にしたい。（看護学生）
- 今回、薬学科、作業療法専攻、栄養健康学科専攻、看護学科の人といったさまざまな職種を目指す人とグループワークを行ったが、まず簡潔にいうとすごくいい経験をさせてもらったと思う。自分は看護学科で今まで何個かの事例を検討してきて、当たり前だが看護師の視点からの検討しかしてこなかった。しかし、今回、さまざまな職種の人と話すことで、自分が考えもしていなかったことを考えてくれ、新たな発見をすることができた。また、自分が知らない分野の知識も教えてもらい、事例における理解が深まった。また、一人の対象者がこれからよりよい生活を過ごすというみんなが同じ目的に向かって考えていくという過程をしていく中で、これがチーム医療なのだと感じる事ができた。（看護学生）
- 他の職種と連携するということを肌で感じられた。そして、職種間で敬意を持ちながら進めることが出来た。反省する点は話し合いの中では栄養補助剤が必要であるか、どのような状態の物なのかを伝えるときにもう一人の栄養学科の学生に確認しながら紹介した。実際の現場では様々な職種の中で、専門としている内容を知っているのは自分だけなので、責任は大きく知識も確実に持っていることが必要だと思った。しかしグループワークを通してチーム医療のメリットをたくさん感じられた。様々な職種がいるので、視点がそれぞれ違うので幅広く提案が出来た。さらに、患者への提案の前に話し合いをしてまとめているので、担当者間での食い違いも少なく簡潔で分かりやすく患者に伝えられると思った。患者とその家族を支援したいという気持ちは同じなので、最終的な目標を一つにしてチーム一丸となってサポートできることが分かった。そして、患者もサポートされているという安心を感じられるのではないかなと思った。（栄養学生）

「地域包括ケア特論」

概 要

- ・日常生活において何らかの支援を必要とする利用者（患者）および家族の、支援計画を多職種からなるチームで検討する。
- ・模擬事例を用い、利用者（患者）及び家族の目標の達成に向けた課題と支援内容を具体的に検討し発表する。

一 般 目 標

地域包括ケアの実践に向けて、利用者（患者）および家族の情報を共有し、生活支援計画を立てる過程を経験することにより、各自の専門性を発揮しつつ、チームとしての質の高い生活支援計画を提示する能力を習得する。

行 動 目 標

- ①地域包括ケアについて理解する。
- ②地域包括支援センターについて理解する。
- ③介護保険制度について理解する。
- ④日常生活における利用者（患者）および家族が有する課題（要望・ニーズ）をチーム内で共有する。
- ⑤課題解決に向け、エビデンスの高い情報を各専門性およびチームとして活用する。
- ⑥課題解決の方針および支援内容を討議することで、多職種連携の重要性を理解する。
- ⑦利用者（患者）および家族の理解、課題と解決策の根拠と各役割を、討議のプロセスも含めわかりやすく発表する。

科 目

開講期間：平成26年11月8日（土）～平成26年11月22日（土）

開講場所：長崎国際大学6102教室

単 位：1単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生で、医療・保健・福祉・介護等の学科を専攻している3年次以上の学生

日 程

開講日・開講場所	内 容
1 日目(11月 8 日)	・オリエンテーション、自己紹介 ・レクチャー ①地域包括ケアと介護予防マネジメント ～多職種による介護予防・支援計画書立案～ ②地域包括ケアにおける医師の係わり ③地域包括ケアにおける歯科医師の係わり ④地域包括ケアにおける薬剤師の係わり ⑤地域包括ケアにおける訪問看護師の係わり ・事例1の提示 介護予防サービス・支援計画表の説明 ・事例2の提示 患者全体像の把握、学習項目の抽出
2 日目(11月22日)	・グループワーク グループ内で自己学習の内容共有 介護予防サービス・支援計画表作成 発表準備 ・グループ発表 ・全体討論、まとめ

履修生内訳

所 属		人 数
長崎国際大学	薬学部（薬学科）	5名
	健康管理学部（健康栄養学科）	1名
	人間社会学部（社会福祉学科）	1名
合計		7名

聴講生内訳

所 属		人 数
長崎国際大学	人間社会学部（社会福祉学科）	1名
合計		1名

一般社会人内訳

所 属		人 数
一般		1名
合計		1名



受講生の感想（一部抜粋・編集）

- 地域包括ケアシステムでは、いろんな専門職だけではなく、住宅や地域住民も含まれていて、それぞれの地域に合ったサービスがあることを学んだ。生活支援計画表作成にあたっては、それぞれの学科で見る視点が違ったため、意見し合うことで最善のものができていくのだと感じ取ることができ、多職種連携は重要であると改めて感じた。（薬学生）
- 自分の考えを相手にわかりやすく伝えるために、コミュニケーション力が必要だと思った。今後は、現在理解している知識について根拠を踏まえて再確認し、更に理解を深め、新しい知識、技術を主体的に取り入れ、より専門性を高めるよう努めていかなければならないと考える。（社会福祉学生）

合同実習（実践力）

「在宅がん医療・緩和ケア実習」

目 的

本実習は、医療・保健・福祉等の学科を専攻している学生が、自己の目指す専門性を伸ばすとともに、がん患者に対する病院から在宅へ切れ目のない療養支援や在宅緩和ケアにおけるチームアプローチについて学ぶことを目的とする。そのため、長崎大学病院や在宅療養支援(歯科)診療所などでの実習を行う。また、他大学の他学科生とのグループによる共同作業を通して、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門職としての主体性・協調性を修得することがねらいである。

一 般 目 標

病院から在宅へ切れ目のない支援や在宅がん医療・緩和ケアにおける多職種協働の実践や重要性について理解する。

行 動 目 標

- ①在宅療養者およびその家族が必要としている在宅がん医療・緩和ケアの内容について述べる（知識）
- ②病院から在宅への切れ目のない療養支援の内容について述べる（知識）
- ③在宅がん医療・緩和ケアにおけるチームアプローチについて述べる（知識）
- ④学外で学ぶ上で、学生としての適切な態度・マナーに配慮する（態度）
- ⑤グループで学習成果をまとめ、全員で討議することで、学びを発展させる（態度）

科 目

開講期間：平成26年9月3日（水）～平成26年9月5日（金）

開講場所：長崎大学病院、在宅療養支援（歯科）診療所、長崎大学薬学部

単 位：2単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生で、医療・保健・福祉・介護等の学科を専攻している
高学年次（原則）の学生

日 程

実習日・実習場所	内 容
1日目(9月3日) 長崎大学病院	9:00～ オリエンテーション 10:00～ セミナー 13:00～ 実習(診療科、診療部門、チームなど6カ所) 16:00～ オープンカンファへ参加(地域医療連携センター) 17:00～ 解散
2日目(9月4日) 長崎・佐世保地区の在宅 療養支援(歯科)診療所等	9:00～ 実習 ・在宅療養支援診療所 8カ所 ・在宅療養支援歯科診療所 3カ所 17:00～ 長崎大学薬学部にて解散
3日目(9月5日) 長崎大学	10:00～ グループワーク 13:00～ 発表準備 14:00～ 学習報告会

参加学生内訳

所属		人数
長崎大学	歯学部(歯学科)	6名
	薬学部(薬学科)	5名
長崎県立大学	看護栄養学部(看護学科)	7名
長崎国際大学	薬学部(薬学科)	3名
	健康管理学部(健康栄養学科)	2名
	人間社会学部(社会福祉学科)	2名
合計		25名



受講生の感想 (一部抜粋・編集)

- 今回の実習で、在宅医療で歯科医師の役割が特に摂食・嚥下の分野において重要であると感じた。しかし、現状として他学部の学生は歯科医師が摂食・嚥下に係わることを認知していなかった人が多かった。おそらく実際の在宅医療の現場でも認知していない人がいると思うので、必要とされるのを待つのではなく、歯科医師のほうから摂食・嚥下できますと主張する必要がある。自信を持ってできることを主張するためにも、摂食・嚥下に関して知識や経験を深めたい。また、チーム医療でアプローチするためにも、お互いの職種がどのようなことを得意としているのか理解できるよう学習したい。(歯学生)
- 3日間の在宅がん医療・緩和ケア実習を通して、病院から在宅への切れ目のない支援において多職種連携および情報共有の重要性を改めて感じた。その中で将来薬剤師としてどのように薬学的知識を活かせるか考え、多職種連携の中で自分の専門性を発揮させるため、また他職種と意見交換・情報共有を行うためには、もっと自分の専門分野の知識量を増やすとともに、他の職種の専門性を理解しておかないと連携できないと感じた。今回の実習を通して、多職種がどのようなことを行っているのか、どのような考えをもっているのか、薬剤師についてどのように考えているのか、この中で将来薬剤師として自分に何ができるのか、どのように連携が行われていくのか考えることができ、とても貴重な経験となった。(薬学生)
- これまで在宅領域の学習をしてきたが、医療ソーシャルワーカー (MSW) について、役割等は理解していたものの、実際の働く現場を十分にイメージすることはできなかった。そのためMSWの方々の下で実習できたことは自身にとって非常に有意義な学びとなった。患者・家族がMSWとの面談を通して一番大事にしていたことは、いかに安心な医療が受けられるかということであった。それは治療を含めた身体的な面、しっかりとサポートされているという精神的な面、そして経済的な面という多様な要素を含めた「安心」である。切れ目のない療養支援において、施設と在宅の間にはっきりとした境界が存在するのではなく、継続的な両者間の密なやり取りやつながりがより患者・家族の安心感を高め、より充実した在宅医療の提供につながるということが分かった。(看護学生)

必修科目

合同実習（基礎力）

「在宅看護論」

概 要

疾病や障害があっても、「当たり前の暮らし」をおくることを保障する在宅看護の役割と働きを理解する。在宅療養における生活支援と、生活の中における医療の継続に視点を置き、医療・保健・福祉の連携と協働における在宅看護師の役割を理解する。

到達目標

- ①社会の変化と在宅看護の歴史的変遷の関連を理解する。
- ②在宅看護を取り巻くシステムを理解できる。
- ③在宅看護の対象と、在宅看護の展開方法が理解できる。

科 目

開講期間：平成26年10月7日（火）～平成27年2月3日（火）
 開講場所：長崎県立大学シーボルト校
 単 位：2単位（専門必修科目）
 対 象：長崎県立大学看護栄養学部看護学科2年次の学生

日 程

回	内 容	
1	期待が高まる在宅看護	在宅医療・在宅看護の動向と社会的背景
2	在宅看護の歴史と現状	在宅看護の歴史と現状（チームで行う在宅ケア）
3	在宅看護をめぐる法・制度	在宅看護の根拠法と諸制度
4	在宅ケアにおける連携とマネジメント	地域包括ケアシステムと関連職種の連携
5	在宅看護の倫理と基本理念	療養者中心の医療・看護と支援者に求められる看護倫理
6	在宅看護の対象	在宅療養を必要とする人と看護の成立条件
7	在宅療養を支える看護	在宅看護の特徴と訪問看護ステーション
8	在宅看護の実際	訪問看護過程の実際
9	在宅看護の実際	電話及び初回訪問時の情報収集と記録
10	事例学習（1）	グループによる看護計画立案
11	事例学習（2）	グループによる看護計画立案
12	事例発表	発表
13	事例発表	発表
14	在宅看護管理（1）	訪問看護ステーションの運営と管理の基礎
15	在宅看護管理（2）	訪問看護時の医療安全（感染防止、リスクマネジメント）
評価	定期試験 80%	発表 20%

※長崎県立大学看護栄養学部 平成26年度シラバスより抜粋

合同実習（応用力）

「薬物治療実践学」

概 要

超高齢社会における在宅療養を支援することは重要である。そのため、在宅療養支援に携わるそれぞれの専門職の職能を理解して行動できる次世代の医療職（薬剤師）を育成する。

授業のねらい

薬学生に対しては「薬局薬剤師の職能に関するアドバンス教育」を行う。

授業方法(学習指導法)

スライドを使った講義と受講者による小グループ討論を行う。

到達目標

在宅療養支援に携わるそれぞれの専門職の職能を理解し、地域医療の中で薬局薬剤師が取り組む共同薬物治療管理（CDTM）の内容について説明できる。地域医療の中での医療・介護・福祉の専門職間の連携（多職種協働）の重要性と薬局薬剤師、看護師、医師等のそれぞれの専門職が果たすべき役割について説明できる。

科 目

開講期間：平成26年4月14日（月）～平成26年4月21日（月）

開講場所：長崎大学

単 位：1単位（必修科目）

対 象：長崎大学薬学部薬学科6年次の学生

日 程

回	内 容	
1	これからの地域薬局のあり方と薬局薬剤師の目指す薬物治療	薬剤師の大学教員による講義
2	薬局薬剤師が支援するセルフメディケーション	薬局薬剤師による講義
3	薬局薬剤師がはじめるフィジカルアセスメント	薬局薬剤師による講義
4	在宅ケアにおけるチーム医療Ⅰ	グループでの討論
5	在宅ケアにおけるチーム医療Ⅱ	グループでの討論
6	在宅ケアにおける看護職との連携	看護職の大学教員による講義
7	高齢者の在宅ケア	医師の大学教員による講義
8	総合演習	全体での討論
評価	授業中の課題に対する積極的な取組状況…50%、レポート…50%の総合評価とする。	
備考	毎回の授業内容をよく復習しておくこと 「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」からのNICEキャンパス長崎登録科目	

※長崎大学薬学部 平成26年度シラバスより抜粋